

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072100559	
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会	
事業所名(ユニーク名)	グループホームサニーワン (ふる一つはうす)	
所在地	和歌山県日高郡日高川町大字初湯川213番地-1	
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日 令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和5年2月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように四季を感じる豊かな自然の中にあって、喜びや楽しみの多い暮らし方が出来るように取り組んでいます。コロナ禍であっても4月には桜の木の下でお弁当を食べながらお花見を楽しみました。6月には御坊の蓮見学に外出したり、7月にはユニット内で夏祭りをしました。秋にはなれ寿司作り、11月には干し柿作り、さつま芋堀り、12月にはしめ縄作りと利用者様が昔から慣れ親しんだ行事をホームでも行いました。一緒に料理をしたり、掃除をしたり、個別には草ひきや編み物、裁縫等の昔はよくしていたが今は中々できないことを職員と共に実現できるように取り組みました。生活リハビリにも力を入れており、片麻痺の方がスプーンで自己摂取出来るようになり、排泄もオムツ対応からトイレで排泄出来るようになりました。全般的にはラジオ体操、歌、手足の運動をしながら、散歩や外気浴では個人の能力に応じて車椅子の方も歩行器を使用したりできる事を増やす機会を設けています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部の集落に立地し、自然に囲まれた静かで過ごしやすい環境にある施設である。現状のコロナ禍において、地域や家族との交流が制限されるなか、毎日の食事に特に力を入れ取り組んでいる。献立はユニットごとに利用者の希望を聞きながら作成し、調理も毎日利用者と一緒に手作りで行っている。季節や行事に応じた特別メニューの提供やイベントの実施、希望に応じた外出の支援等、利用者と職員が共に楽しみながらを行い、理念にある通り”四季を感じる喜びや楽しみの多い暮らし方”の実現ができている。また、希望があれば看取り介護にも対応でき、最期まで住み慣れた施設と環境で生活できるよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所、ユニットに掲示し、職員の共有に努めている。四季を感じる豊かな自然を活かし楽しみの多い暮らしの実現を目指しています。	理念は、施設内の誰もがわかりやすいところに掲示されており、季節の行事や食事の提供等によって、理念にもある四季を感じられる生活の実現ができている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ対策中であり、日常的な交流は難しいが、感染状況に応じて近所の商店への買い物に出かけたりした。	現状のコロナ禍においても、ガラス越し面会やオンライン面会の実施、地域の商店での買い物支援、地域の清掃活動への参加等、日常的に地域との交流の機会がある。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ対策の為、地域の人々との交流が出来ていない。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ対策で施設での運営推進会議はできていないが、書面開催形式をとらせて頂き電話等で意見交換を行なっている。	現状は感染予防の観点から書面での開催となっているが、施設の運営状況を報告することにより、関係者から意見を汲み取る機会がある。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する質問や変更の事項については市町村に相談し、回答を得ています。状況にあわせて担当者との相談をその都度行なっています。	行政職員とは日常的にやり取りする機会があり、お互い相談しやすい関係である。また、地域ケア会議にも出席し、情報の共有もできている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修等に参加し職員は理解している。玄関の施錠に関しては午前8:30～9:30 午後16:30～17:30を毎日開錠しています。その他状況に応じ開錠しその際には利用者が行方不明にならないように安全配慮に努めている。	身体拘束の事例はないが、定期的に研修を行ったり、会議の場で不適切ケアがないか現状確認するなど、職員間で意識の共有ができる。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修、施設内の勉強会や月に一度の委員会に参加し、各職員に啓発しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について電話相談を受け活用された方が以前1名おられたが現在は無い。今後も学ぶ機会を持ちたいと思います。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際には入居者、家族様には十分な説明と理解を頂き契約の締結、解約等をしています。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ対策で電話やLINE等で意見を伺っています。リモート面会や窓越し面会等でも家族様から直接伺う機会もあります。利用者からは日頃の関わりで傾聴しています。	利用者からは日常会話の中から意向を汲み取り、家族からは面会の際やケアプラン更新時に意向の確認を行っている。自宅へのドライブや食事のリクエスト、リハビリの希望など、実現できていることが多い。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で職員の意見を聞き運営に反映させています。	上司が定期的に個人面談を行うことで、職員の意見や要望を汲み取っている。また、会議の場でも職員は自由に意見を述べることができ、物品の購入や異動の希望等、運営に反映させることも多い。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二度の人事考課による評価を行い、面接において個人の目標や希望を聞き取り、意欲向上に努めています。また、状況に応じて臨機応変に対応しています		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況に応じ、内部研修やリモート研修に参加していただいている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により直接交流は出来ていないがリモート研修等で同業者との交流を図っています。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し合い、不安や要望を傾聴しながら、信頼関係が作れるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様から要望を伺い、ケアプランに反映させている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に確認し対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他者との共同生活が楽しみのあるものになるように一緒に考えていけるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡等で話し合い、家族様との絆を大切にしながら共に本人を支え合う関係作りに努めている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の往診や車内から自宅の様子を見に外出したり、馴染みの場所との関係が途切れないよう可能な範囲で支援している。	コロナ禍において外出や施設への立ち入りが制限されている状況においても、自宅へのドライブや入所前のかかりつけ医の往診等、馴染みの人や場所との関係が途切れないう支援がされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に洗濯物をたたんだり料理をしたり関わり合い、支え合える支援に努めている。座る位置にも配慮し、孤立しないように見守っている。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退居後も状況に応じて相談、支援に努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らしの希望を傾聴し把握に努めケアプランに反映させている。	入所時とプラン更新時に、本人・家族から意向や生活歴の確認を行い、プランに反映させている。外出の希望や食事準備の手伝い、畑での野菜作りなど、暮らし方の意向を施設での生活に取り入れることができている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族様に確認し、これまでの生活が継続出来るように、あるいはこれまでの生活に近づけるように支援しています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で健康管理をし、職員同士で情報交換を行い、残存機能の維持、向上に努めている。		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人から要望を伺い、ユニット会議でスタッフ・看護師等の意見を取り入れながら本人の現状に即した介護計画の作成に努めています。	基本的に6ヶ月ごとにモニタリングを行い、プランを更新しており、ケース担当者中心に会議で意見を集約し、家族や医師・看護師とも相談しながらケアプランを作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやケース記録に記載し共有できるように実施している。職員の気づきはノートを活用し情報共有に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所自体は多機能化は難しいが、ニーズへの相談、一人ひとりを支える為の援助に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策をしながらも、馴染みの商店等への買い物に出かける事が出来た。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、事業所とかかりつけ医との連携を大切にし、適切な医療が受けれるよう努めています。	入居前のかかりつけ医の中には往診に来てくれる医師もあり、併設の特別養護老人ホームの主治医も診察してくれる。コロナ後は歯科などの診察には職員が送迎している。診察後は直ぐに家族に様子を報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談し、連携を取っている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や家族様と連携を取り、経過観察し、長期入院が必要となれば院内カンファレンスを開催して頂き情報交換をしたり、電話等のやり取りで情報共有しています。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応に関わる指針を家族様に説明しています。利用者の状態にあわせ、家族様の意向に沿い家族様、主治医、看護師、専門職としっかり連携を取りながら終末期ケアの実践にも努めています。	入居時に看取りの説明をし、本人・家族の希望に可能な限り応じている。ここでの看取りを希望する場合、何かあれば主治医は直ぐに駆けつけ、看護師は24時間いつでも連絡がつき、職員も定期的に研修をしている。遠方の家族は希望すると宿泊もできる。	看取り加算は算定していないが、希望する利用者がいる時には実際に看取りが行われている。今後も円滑に施設での看取りを実施していくためにも、看取り指針やマニュアル等の整備が行われることを期待する。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	定期的に救命講習を受けています。また、内部研修や施設看護師に勉強会や指導を受けています。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄の確保を併設の施設と協力し行っている。災害訓練や夜間想定の避難訓練も定期的に実施し、職員は災害時の対応を学んでいます。	備蓄は3日分、併設の特別養護老人ホームに置いている。日中、夜間想定の火災訓練を防火管理者の指導のもと、利用者と職員で3ヶ月に1回行っている。発電機も用意して緊急時に備えている。	施設は山間部に位置しており、災害等で道路が寸断され孤立するリスクも想定されるため、減災に向けての更なる取組を検討されることを期待する。

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心掛け、希望が有れば同性介助の対応をしている。	職員は研修を行い、声かけは基本敬語で行い、命令口調やちゃん付けはしないようにしている。利用者の希望があれば、同性介助を行っている。利用者それぞれに担当者がいて衣替え等を手伝っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、自己決定できるように支援しています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしながら、その日の過ごし方を希望に沿って支援しています		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る衣類は職員と一緒に選んだり、自己決定できるようにしています。理美容は二か月に一回の出張サービスを受け希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みに応じて作り分けをしたり、コロッケや餃子も手作りして一緒に調理している。季節の郷土料理のなれ寿司作りはみなさん手慣れたもので楽しそうに作られています。	食事は利用者と一緒に職員が手作りしている。メニューは利用者の意見を聞き、誕生日には好みの料理とケーキで祝っている。コロナ後は職員は一緒に食事していないが、おやつ作り等では共に食べることもある。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は電子カルテに記録し管理しています。食事量の低下があれば、主治医や家族様と相談し、栄養補助食品を購入して頂く等1人ひとりの状態に応じた支援をしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと義歯洗浄は週二回ポリデントを使用しています。また、口腔ケア委員会にて1人ひとりの口腔状態の把握をし、指導、教育をしています。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテを活用し、一人一人の排泄パターンを把握し対応している。オムツ対応であつたがトイレ介助での排泄へと自立できた方もいる。	個々の排泄チェックをパソコンで行うことで、退院してグループホームに戻った利用者が、自分で排泄できるようになるなど、排泄の自立に向けて支援している。ポータブルトイレの利用者は本人の好きな位置に置いている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	電子カルテを活用し、排便や水分の確認をしています。乳酸菌食品や食物繊維の多いものを食べて頂いています。毎朝のラジオ体操やレクリエーションで運動の機会を設けています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望に添うように曜日や日時は決めずに毎日、朝から夕方まで利用できるよう努めています。入浴拒否の方には声掛けの工夫をし、入浴のタイミング、足湯、シャワーのみ等個々に添った支援をしています。リフトも設置しており、浴槽への移動が難しい方への対応もしています。	入浴は日中で基本週2回だが、希望する利用者は3回入っている。お湯は毎回入れ替えて、季節のゆず風呂等、楽しんでいる。リフト浴もあるが、入浴が難しい利用者は特別養護老人ホームの機械浴も利用出来る。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のリズムに応じて休息したりされている。日中の活動やメリハリのある生活で良く眠れるよう支援している。朝の起床時間は一人ひとりその時によって違う対応が出来るよう努めています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりのお薬の内容把握に努めている。処方内容に変更があれば主治医や看護師に確認したり、電子カルテでの申し送り等情報共有に努めています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や花壇の草引き、編み物や裁縫等生活歴を活かした役割や楽しみごと、趣味の時間を楽しむ支援をしている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の商店への買い物や園庭への散歩をしています。テレビでしていた蓮の花を見たいとの希望があり、新型コロナ対策をしながら御坊方面へ蓮の花の見学に出掛けました。中津の桜とチューリップ畠への見学にも出かけました。	コロナの状況を見ながら、車で買い物に行ったり、自宅を見にドライブしたり、敷地内を夕方に散歩したり、近所の土産物店まで歩いて買い物することもある。利用者の要望を聞き、車で花見等に出かけることもある。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお金の管理をされている方もおられ、買い物等で支払いをされたり、自由に使われています。職員は見守りしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも家族様と会話が出来るように支援しています。携帯電話を持参している方も居られ、自由に通話されています。便せんや封筒を自己管理され、熱心に手紙を書いておられ、返事も来たりやり取りをされています。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中でも季節を感じて頂く為に季節の花や写真を飾ったりしています。食事は旬の食材を取り入れ提供しています。共用のリビングでは温湿度を管理し、居心地の良い空間作りをしています。	利用者と職員が一緒に作った壁飾りが飾られ、リビングには季節に応じた飾り付けがされている。利用者のテーブルの椅子の配置は決まっていて、テレビも見やすい位置に配置されている。小さなメダカの水槽があり、利用者が餌をあげている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が談笑したり、家事をしたり、思い思いに過ごせるように工夫をしています。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの家具等を持って来て頂いています。家族様との記念写真を飾ったり本人様が居心地良く過ごせるよう工夫しています。	タンス、テレビ等は自宅から好みのものを持って来ており、ベッドは施設のものを使用している。配置は、入居時に利用者の希望を聞き、安全面を考慮して置いている。利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や危険な場所には保護をしたり椅子や車椅子等1人ひとりのできることやわかることを活かして間違いやすい事に関しては貼り紙等でできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。		